

鉢花物語

第一話 はじまりはシクラメン

株式会社
登坂園芸
TOSAKA ENGEI Co., Ltd.生産者ならではの
シクラメンの育て方を
YouTube にて公開中！

水やりのポイント

購入後に水を与え、下から水がでてきた時点の鉢の重さを覚えます。軽くなったらコップ1杯の水を与えましょう。時々触れて葉っぱの張りを確かめることも、水やりの目安になります。

詳しくは動画にて



花
が届いた。

社会人3年目、東京で一人暮らしをしている息子からだった。妻が嬉しそうに電話で話している。話を終えた妻は「母さんは花が好きだし、父さんはらーめんが好きだからちよいと良いだろ、シクラメン、肅らーめん、だって」と楽しそうに話す。「なんだそりゃー」と思いながらも、ちよっと太り気味の私の事も、息子は気にかけようとしているらしい。

私は、これまで妻に一度も花を送った事は無い。花を愛でる妻を横目に日々を過してきただけ。

「ちゃんと診てもらったら骨折だって。私、しばらく入院だけあなた大丈夫？」電話越しに伝える妻の声には不安がにじむ。

置き場所のポイント

陽が当たり、昼夜の温度差が少なく、人が居て心地良いな…と思うところがシクラメンにとっても最適な場所です。(15～5℃くらい)

詳しくは動画にて



それから5日、妻のいない生活にも慣れてきた。洗濯機を回し窓辺を見ると、送られてきた時の見る影もない萎れたシクラメンがあった。これはまずい。そうだ、妻は玄関に運び、風呂桶で水を与えていたな。桶半分の水をかけるも変化なし。そう簡単には元には戻らんかと、諦めきれずに近くの本屋へ。栽培実用書はたくさんありすぎて何を読めば良いのかわからず、途方に暮れる。

夕飯の買い物を終え、帰宅したところにはシクラメンはすっかり元気になっていた。鉢を持ち上げると、朝よりもだいぶ重い。水をしっかりと吸ったのだろう。でも何かが違う。枯れた花や葉が目立つのである。妻がやっていたように枯れた花を引っ張ってみる。プチッ、プチッという音とともに簡単に取れた。プチッ、プチッ、プチッ…無心になって抜いていると、きれいな花まで抜いていた。しまった…。

翌朝。抜いてしまったきれいな花を、病院の妻に届けた。といってもコロナ禍で病室まで行くことはできず、病院の受付に預けただけであるが。

夕方、妻から電話。「お墓参りじゃないんだから、新聞紙で包んだ花なんて…でも、ありがとうね」妻は少し笑っていた。退院の日取りの確認をして、電話を切った。

ふと目を落とすと、レースカーテン越しの淡い夕日を浴びながら、少しうつむきがちのシクラメンが「おつかれさま」と言ってくれているようであった。

【つづく】



長く楽しむために

枯れてしまった花や葉は根元から取り除いてください。通気が良くなりカビの防止になります。丁寧に育てれば春頃まで楽しめます。

詳しくは動画にて

このお話は
フタクシ
文・三石ころ
絵・星野博美

